

「売上横ばいも採算は大幅悪化—コスト高が利益を圧迫」

～「日田商工会議所」市内企業景気動向調査結果～

○調査対象期間：令和7年10月～令和7年12月期

○調査企業：51／108社（回収率 47.2%）

（製造業）6／20，（建設業）11／19，（サービス業）10／21，（卸売業）10／19，（小売業）14／29

○調査項目：売上・採算・業況等についての状況（現状・見通し）および業界として当面する問題

【調査結果の概要】

全業種合計の業況D Iは▲19.6ポイント(前期比2.3↓)で、横ばい傾向となった。業種別D Iでは、サービス業は0.0ポイント(同15.4↑)と回復傾向。製造業は16.7(同2.4↑)と横ばい。建設業▲27.3ポイント(同5.1↓)、小売業▲35.7ポイント(同7.1↓)、卸売業▲30.0ポイント(同7.8↓)と悪化傾向となった。業況D Iの来期見通しについては、建設業・小売業は回復傾向、卸売業は横ばい、製造業・サービス業は悪化傾向となった。今期の売上D Iについては、全業種合計で1.7ポイント↑と横ばい、今期の採算D Iについては、全業種合計で12.2ポイント↓と悪化傾向を示した。

製造業

業況	売上	採算
→	↑	→

建設業

業況	売上	採算
↓	↓	↓

小売業

業況	売上	採算
↓	→	↓

サービス業

業況	売上	採算
↑	↓	↓

卸売業

業況	売上	採算
↓	↓	↓

※D I 値（好転・増加—悪化・減少）の傾向(前期比との比較)

↑改善傾向

→横ばい

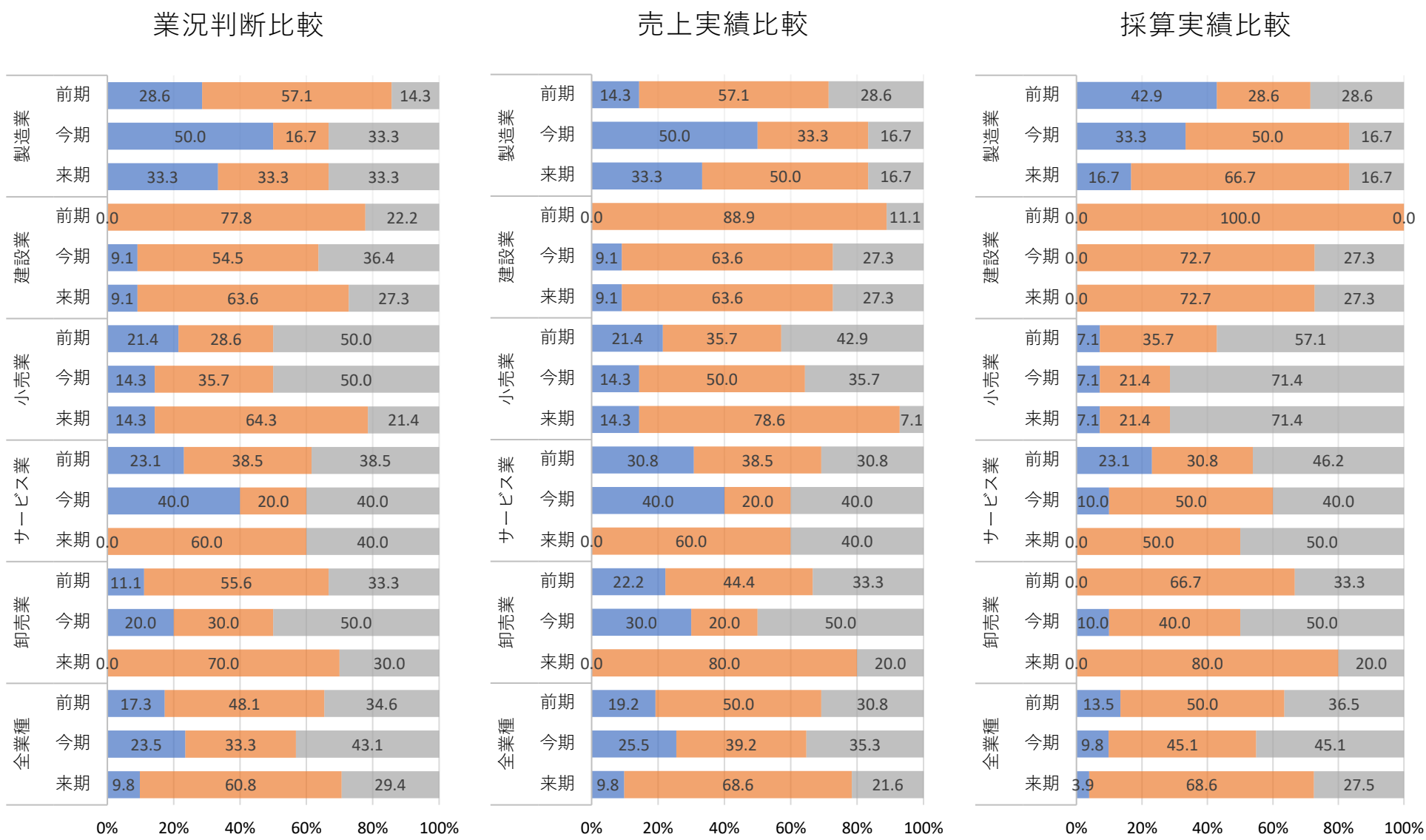
↓悪化傾向

- ・依然として価格転嫁が課題。少しずつ実施できているが、政府や業界団体からの指導をお願いしたい。（製造業）
- ・新規事業をいかに獲得して、売上を上げ、利益を確保することを最重点にしている。（製造業）
- ・建設業の地方都市(所得水準が低い)に於いては、金利上昇が新築物件の減少となっている。（建設業）
- ・令和7年度より日田市立中学校共通制服が導入されました。11月22日より令和8年度入学の生徒さんに対するセールを実施し、前年度より販売価格を低く設定したところ約2.2倍の受注があり売上を大きく伸ばすことができました。（小売業）

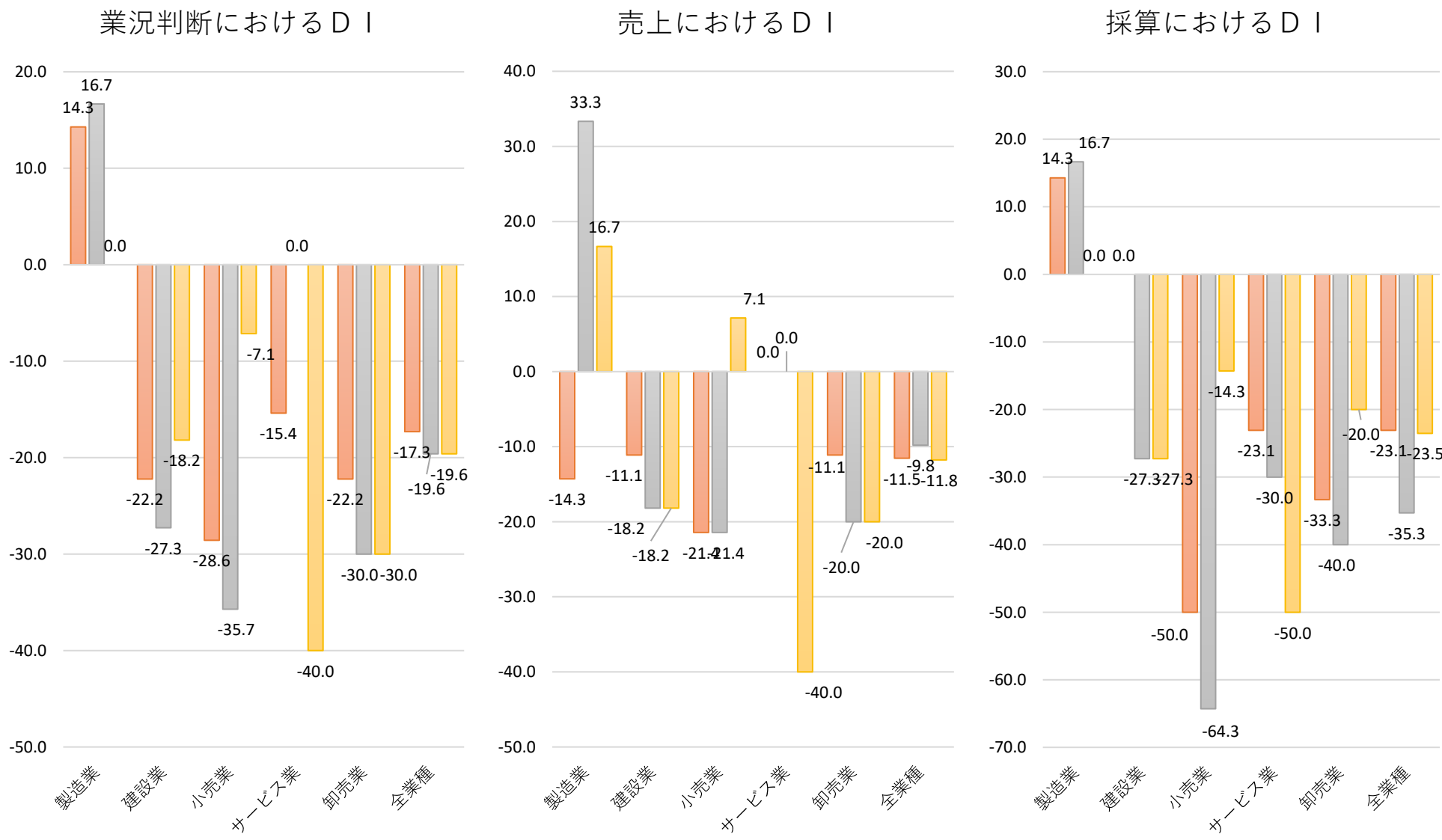
(※ 裏面に続きます)

- ・インバウンド客は韓国、台湾が多い。もともと中国人客は少なかったので影響はなかった。(小売業)
- ・以前よりもイベント売上が見込めなくなり、今回も伸び悩んだ。売上は昨年と変わらないが、物価高の影響で利益は減少している。(小売業)
- ・日銀の利上げが発表されたが、株価が下がらなかったため、政策金利が2%以上になるまで今後も定期的に利上げが行われると思われる。益々消費が落ち込むことが予想されるので、我々中小企業も労働者の賃金をできる限り上げて、消費を支える必要があると思う。そのためには、原資となる売上を確保するために販売単価を上げなければいけない。商工会議所には市内企業に向けて安売りではなく付加価値を高める啓蒙活動を行ってほしい。(サービス業)
- ・売上増加、利益減の傾向が見られます。価格の見直しなどの対策が今年度の課題です。(サービス業)
- ・インバウンドの売上が増加。(サービス業)
- ・人手不足により業務の効率化が課題。(卸売業)

令和7年度10～12月 景況調査



左から 好転、不変、悪化

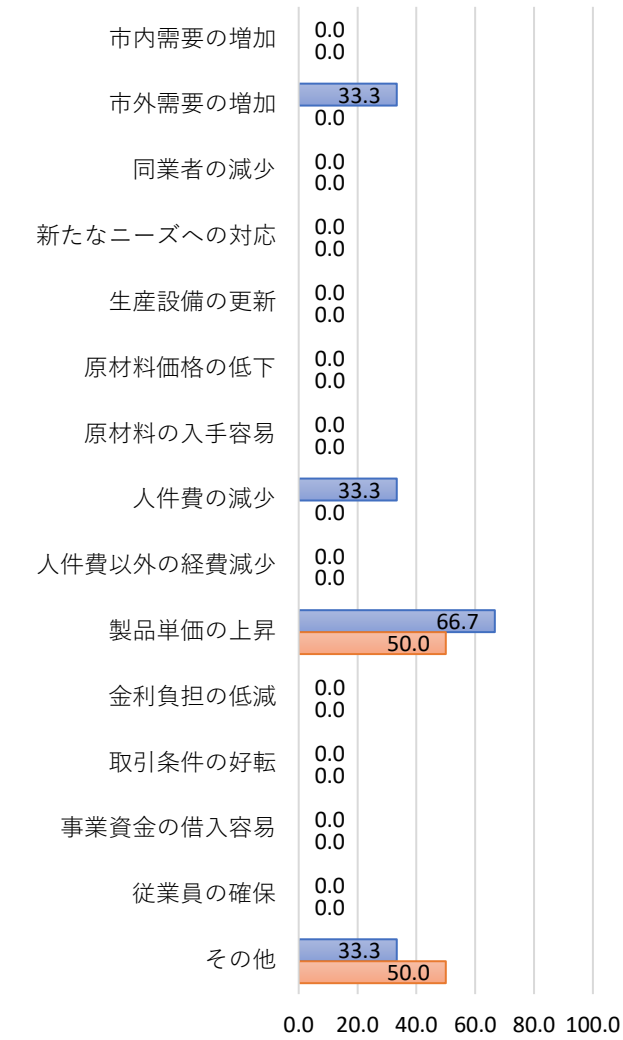


左から 前期、今期、来期

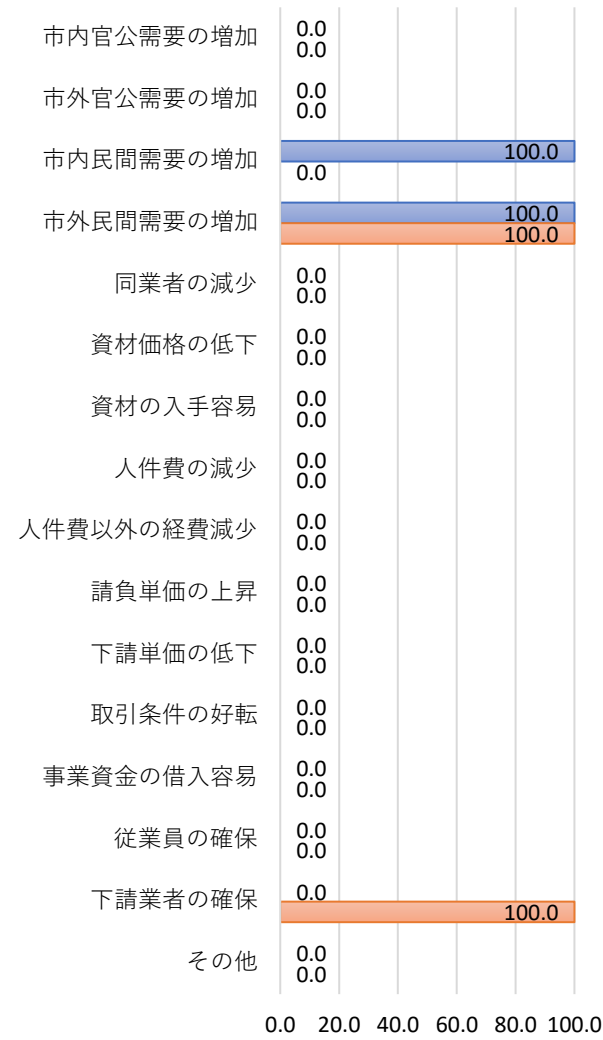
※D I = 「好転」「増加」企業 − 「悪化」「減少」企業割合

令和7年度10～12月 景況調査

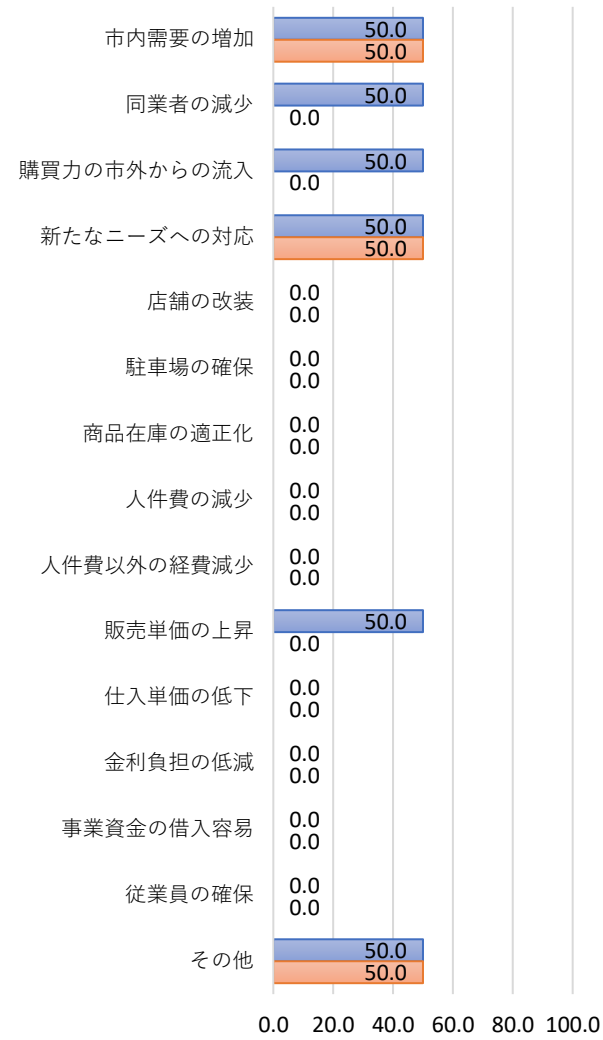
業況の好転要因【製造業】



業況の好転要因【建設業】

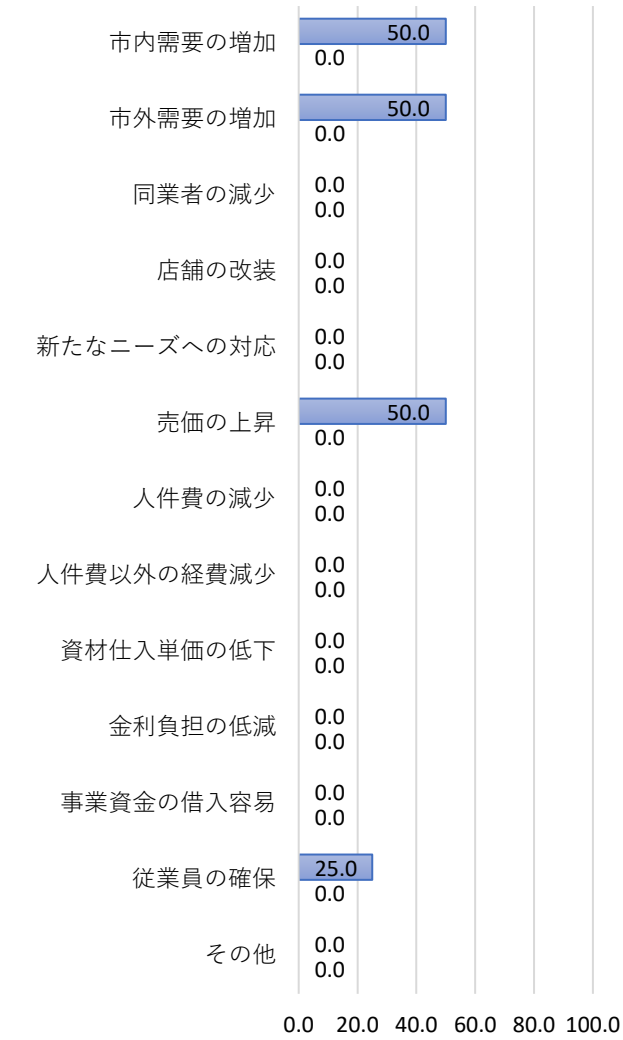


業況の好転要因【小売業】

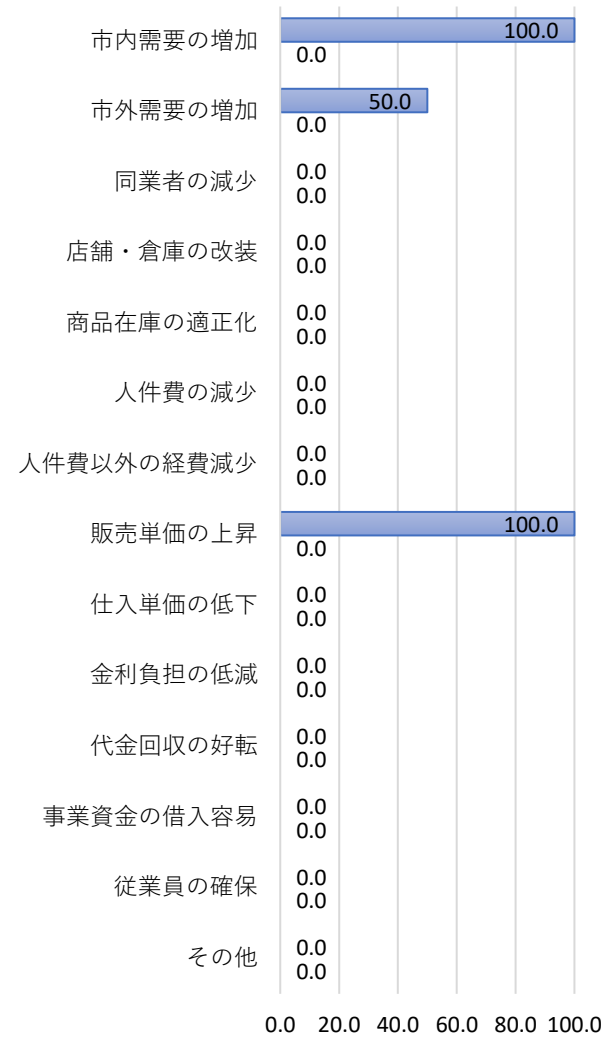


上段：今期、下段：来期

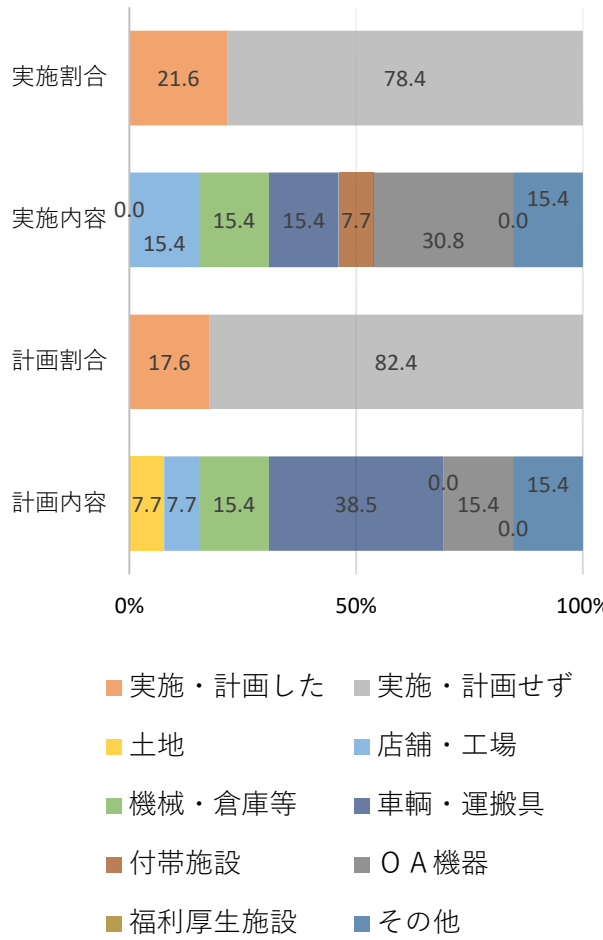
業況の好転要因【サービス業】



業況の好転要因【卸売業】

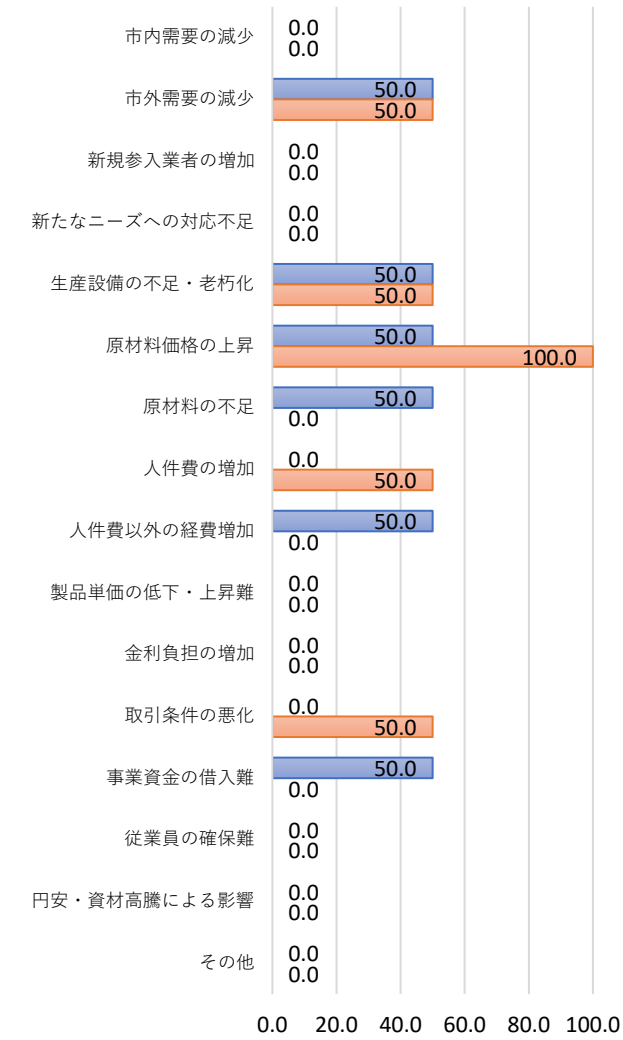


設備投資実施・計画割合
(内容別)

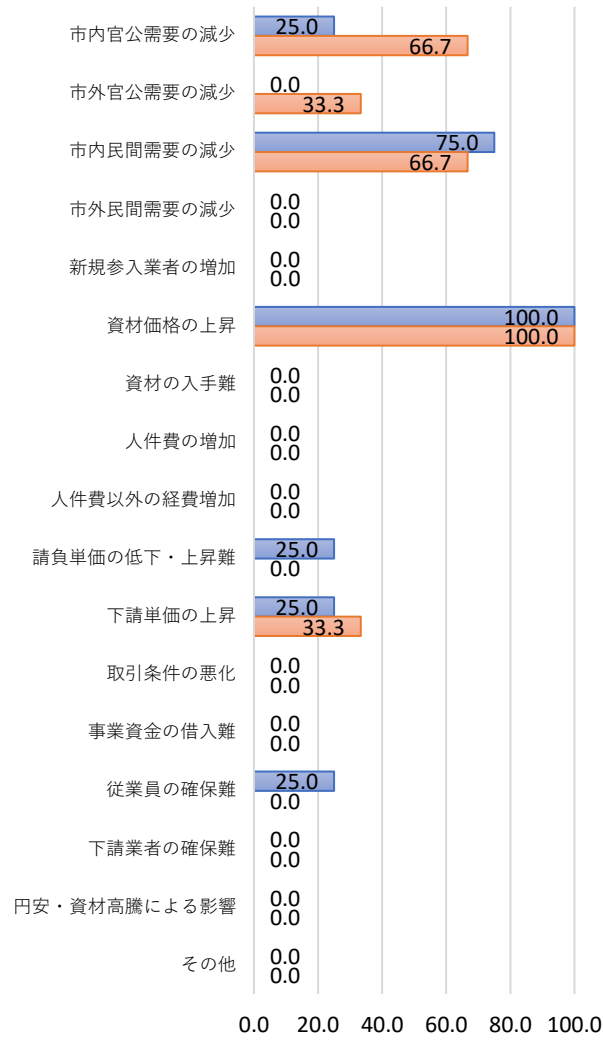


令和7年度10～12月 景況調査

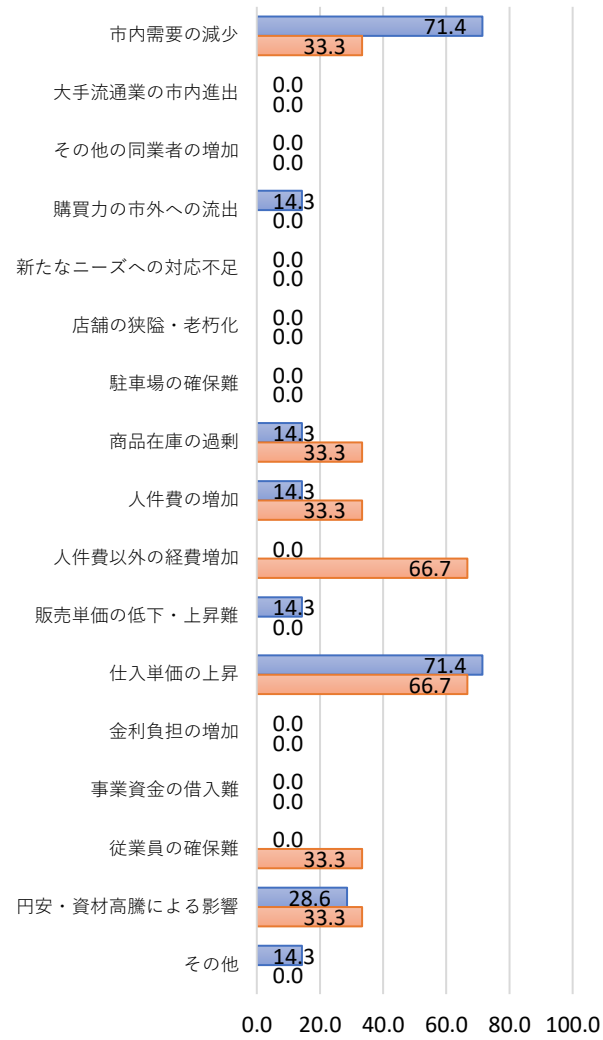
業況の悪化要因【製造業】



業況の悪化要因【建設業】

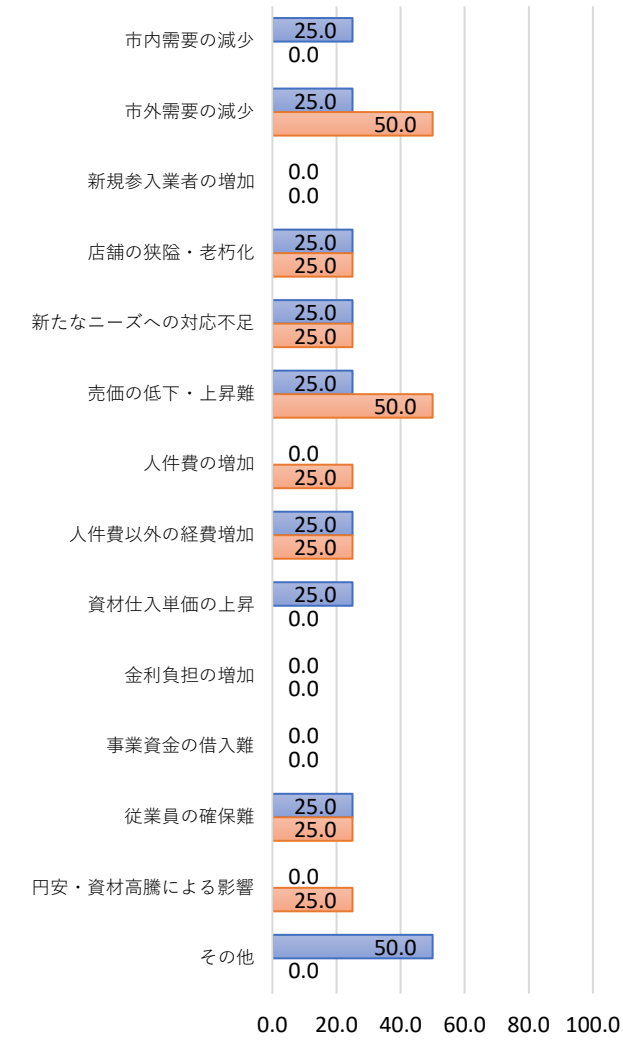


業況の悪化要因【小売業】

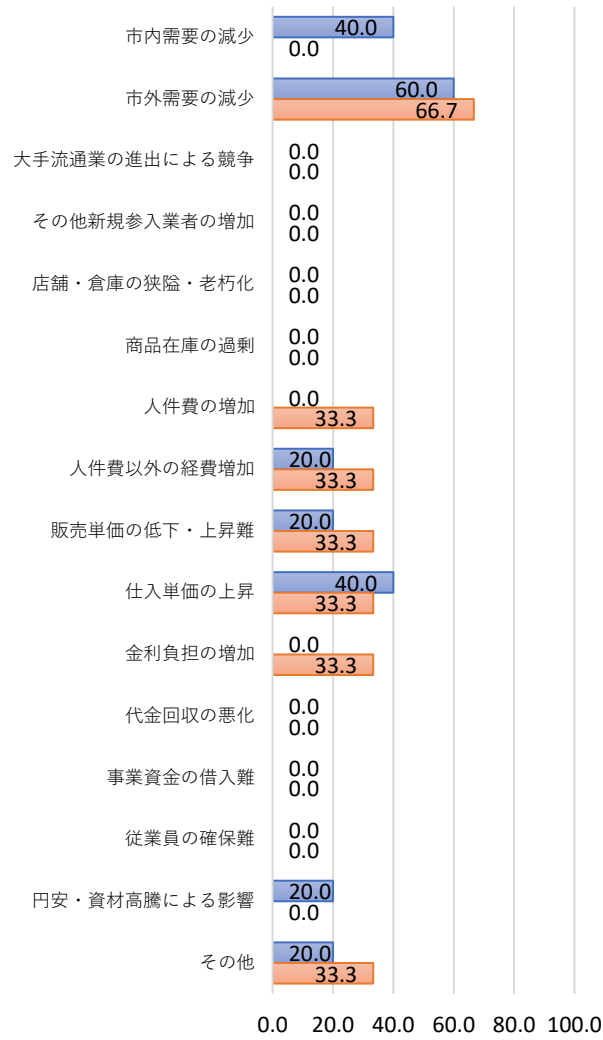


上段：今期、下段：来期

業況の悪化要因【サービス業】



業況の悪化要因【卸売業】



設備投資実施・計画割合
(業種別)

